

小学6年1組 家庭科学習指導案

指導者 井上 富美子

エプロンの製作においてペア活動を取り入れ、互いに確かめ合い、考えを出し合うかわりをもたせることは、被服製作の知識・技能を高め、課題を解決していく力を育てることに有効であったか。

1 題材名 マイ・エプロンをつくろう ～自分にあったポケットを考えよう～

2 授業の構想

(1) 本学級は男子13人、女子14人、合計27名の学級である。これまで家庭科の学習には意欲的に取り組む児童が多く、発言も活発である。1学期にはペア活動やグループ活動による調理実習や洗濯実習を協力して行ってきた。布を使った製作は、5年生の時にフェルトを使った小物作りやエコバック作りを行ってきており、基本的な手縫い（なみ縫い、返し縫い、ボタン付け）やミシン縫い（直線縫い）は経験している。しかし、1学期にボタン付けの復習をしたところ、半数以上の児童が方法を忘れていたり、玉結び、玉どめがきれいにできなかつたりした。5年生の授業の後、ほとんどの児童が家庭で行っておらず、知識や技能が身につけていないことがわかった。また、5年生で製作した作品は大きさが小さく、製作時間も短かったため、大きな布を使っての製作は経験がほとんどないと思われる。被服製作では全体の見通しがもちにくいと思われる。また、家庭科のものさしやメジャーは、使い方や目盛りの読み方が独特であり、しるし付けの方法や縫いしろの付け方など、手順や材料・道具の使い方に戸惑うことが多いと予想される。

(2) 本題材は、エプロン製作を通して被服製作の基礎を身につけることをねらいとしている。5年生の学習では、基礎縫いを中心にして布を使った平面構成の小作品（小物作り、エコバック）を製作した。6年生では、さらに自分自身が身につけるエプロン製作を行う。エプロンは平面構成でありながら身につけることによって衣服となる。1学期に学習した「衣服のはたらき」の中の「活動に合った着方」をする衣服である。実際に身につけるため、被服製作としての採寸や型紙を取り扱うのに適した題材である。また、完成後は調理実習で使用することができ、くり返し洗濯をしたり、アイロン掛けをしたり、サイズに合わせてボタン付けを変えて長さを調節したりすることができる。単に製作して終わるのではなく、衣服を手入れ、管理していく学習につながられる題材である。これは中学校の技術・家庭科の「衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ」につながっていく。環境の視点からも、きちんと管理することでくり返し長期の使用に耐え、リフォームやリサイクルによりさまざまな形で使うことができる。

また、布は、紙やその他の素材とは異なり、その取り扱いや構成に特徴がある。1学期の学習では、布を糸にほどいたり、布の織り方の組織模型を作って布の構成を体験的に学習した。この布の特徴が今回の製作の縫いしろや始末の仕方の学習につながっている。児童は型紙製作の時、縫いしろの必要性に気づくことになる。さらに端の始末の違いにより縫いしろの分量の違いに気づかせることができる。

本題材では、製作全体を見通せるために、ただ単に製作手順に沿って作業を進めていくのではなく、製作過程において、それぞれの作業の必要性や意味を考えさせながら進めていく。採寸、型紙、まち針、縫いしろの分量と始末の仕方の関係などを、ペア活動を取り入れ、相互評価で作業を確認し、互いに方法や手順を考えさせながら製作を進めていくことで、製作の手順だけでなく、その意義が体験的に理解できるようにする。これらの学習活動により、知識・技能を高め、協力して課題解決していく力を育てることをねらいとしている。

(3) 本題材では、まず1学期に学習した「活動にあった着方」からエプロンに適したデザインを考えさせる。その際、ポケットの役割についても考えて、デザインさせたい。次にペア活動でメジャーを使って着丈、首ひもの長さを互いに採寸させる。メジャーの使い方を知り、正しい採寸ができるように互い

に協力し教え合うことができるようにしたい。型紙は新聞紙を使って児童が簡単にできる形にしている。ものさしを使って製図ができ、切ったり貼ったりして、丈や長さを簡単に調節することができる。また、型紙を試着して、互いにペアで丈や形をたしかめ合うことができると思われる。布の教材は、基礎・基本の技能が習得でき、互いの進度差がつきにくく、色やポケット付け、飾り付けが工夫できる無地の「半縫製済みエプロン」を用いた。しるし付けやボタン付け、ミシン縫いなどの基礎技能を一つずつ確実に取り組ませるとともに、ポケット付けや飾り付けを互いに工夫できるようにしたい。

本時の学習では、エプロンに付けるポケットの形、大きさ、付ける位置を考えさせる。児童は事前の学習でエプロンのデザインを決め、ポケットの形や大きさを決めて型紙を作ってデザイン画に付ける位置を描いている。ポケットの形やデザインは、四角や長四角のもの、底が丸形のものがあり、付け方も小さいポケットを2つ付けるものや、大きなポケットを1つ付けるものなど様々であるので、各自のデザインによって使いやすいポケットの形や大きさ、付ける位置は変わってくる。

ポケットの型紙をエプロンにまち針で付けることで、できあがった時のデザインをイメージさせることができる。さらに型紙は簡単に形を修正したり、付ける位置を変えることができる。実際に作業を通して試行錯誤しながら、一番自分のエプロンにあったポケットを考えさせたい。

まず最初に、全員で事例を用いて、基本的なポケットの形や大きさ、付け方をチェックする視点を学習する。次にペア活動で、自分のエプロンを試着して互いにチェックさせることで、それぞれのデザインによる使いやすいポケットの形、大きさ、付ける位置などについて理解を深めさせたい。相手のポケットをチェックし、アドバイスを考えることで、ポケットの善し悪しを判断し、より良くする方法を考えることができる。また、相手に自分のポケットをチェックしてもらうことで、客観的な評価やアドバイスをもらうことができる。これらの活動により評価する判断力が高められると考える。

ポケットを修正する段階では、ペアの相手からのアドバイスを参考にしながら、型紙の形や大きさを変えたり、まち針で付ける位置を移動させたりする。そのためには修正する内容ができるだけ具体的なものである必要がある。大きさや位置を数値にしたり、実際にしるしを付けておくことなどが考えられる。また、同じポケットを2つ作る場合は、重ねて型紙を切るなどの工夫も考えられる。これまで型紙の製作やしるし付けの学習ではエプロンが左右対称の形であり、縦半分に折って作業をすることで正確に効率的にできることを学んできている。付ける位置を決めるときも、正確に中央に付けたり、左右が同じ位置に付けられるように作業の仕方を工夫させたい。このような作業を試行錯誤することで、より正確に効率的にできる方法を考えさせたい。修正したエプロンを再度試着して、互いにチェックし合うことで、学んだ成果が確認でき、自信を持って製作を進められると考えられる。また互いに良さを認め合うことで、製作への意欲も高まり、完成をめざして積極的に取り組んでいけると考える。

3 活動展開計画 (全18時間 本時12/18)

次	主な学習活動・内容	時	具体的な学習活動
1	マイ・エプロンを考えよう	1 2	・エプロンのはたらきを知る。 ・エプロンのデザインを考える。
2	エプロンの型紙を作ろう	3 4 5 6	・採寸の方法を知り、着丈、首ひもの長さを測る。 ・新聞紙を用いてエプロンの型紙を作る。 ・自分の寸法に合わせて、型紙を直す。
3	エプロンのできあがり確かめよう	7 8	・布にしるし付けをする。 ・まち針で仮止めをして試着し、できあがり寸法を確認する。 ・縫いしろを付けて裁断する。
4	エプロンをぬってみよう	9 10	・首ひものボタン付けをする。 ・すそを三つ折りにして、しつけ縫い、ミシン縫い

		1 1	をする。
5	自分にあったポケットを考えよう	① 2 1 3 1 4 1 5	・ポケットの形、大きさ、付ける位置を考える。 ・ポケットを作る。 ・ポケットをエプロンにしつけ縫いし、ミシン縫いをする。
6	マイ・エプロンの仕上げをしよう	1 6 1 7	・エプロンに飾り（アップリケ、刺しゅうなど）を付ける。 ・アイロンをかける。
7	マイ・エプロンを着てみよう	1 8	・エプロンを試着して、できあがりを発表する。

4 評価計画

次	時	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解	家庭科における思考力・判断力・表現力
1	1 2	マイ・エプロンの製作に関心をもっている。	自分に合ったエプロンを考えようとしている。		エプロンのはたらかさを考えて形を考えている。	
2	3 4 5 6	できあがりを考えながら型紙作りに意欲的に取り組んでいる。	効率的に型紙を製作する方法を考えている。	型紙を自分の身体寸法に合わせて直すことができる。	メジャーやものさしを使って正確に採寸している。	型紙からエプロンの形を予想することができる。
3	7 8	正確にしるし付けをしようとしている。		型紙の寸法に合わせて布にしるし付けができる。	チャコペンシルを使ったしるし付けの方法がわかる。	
4	9 10 11	しるしに合わせて正確にエプロンを縫おうとしている。		ボタン付けやミシンの三つ折り縫いが正確にできる。	ボタン付けやすその縫い代の始末の方法がわかる。	目的に合わせた縫いしろの付け方、分量を考慮することができる。
5	12 13 14 15	友だちと共に考えを出し合いながら、ポケット付けを考えようとしている。	エプロンのデザインや機能を考えてポケット付けを工夫している。	適した縫い方を用いて、ポケットを付けることができる。	エプロンに適したポケットの形、大きさ、位置、縫い方が分かる。	できあがり形を予想して自分が使いやすいポケットの形、大きさ、位置を決めることができる。
6	16 17	エプロンを正確に丁寧に仕上げようとしている。	自分の考えたデザインになるようにエプロンに飾りを付けようとしている。	糸の始末やアイロンかけが適切にできる。	エプロンの仕上げの手順がわかる。	自分で考えたデザインを表すために適した方法で飾り付けができる。
7	18	自分のエプロンの良い点や工夫したところを発表しようとしている。			自分や友達のエプロンの良い点がわかる。	自分で作ったエプロンを自己評価することができる。

5 本時の学習

(1)ねらい 自分のエプロンに合わせて、ポケットの形、大きさ、付ける位置を考えることができる。

(2)展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価
<p>1. デザイン画を見て、自分の付けたいポケットを思い出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分のエプロンに合わせて、ポケットの形、大きさ、付ける位置を考えよう</p> </div> <p>2. 事例のエプロンを使ってどこに、どのようなポケットを付けたら使いやすいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポケットの大きさはどうだろう ・ポケットの形はよいだろうか ・ポケットをどこにつけたらいいだろう <p>3. ポケットの型紙をエプロンに付け、試着する。 (ペア活動)</p> <p>エプロンにポケットの型紙を付ける。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>試着して、相手にチェックしてもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この大きさでものが入るかな ・〇〇を入れるには、この形でいいかな ・この位置で使いやすいかな <p style="text-align: center;">↓</p> <p>アドバイスを書いてもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポケットを〇cm大きくした方がいい ・形が左右対称でない、同じにするには真ん中で折って作るという ・位置がずれている、エプロンに位置を測ってから付けるという <p>4. 友達のアドバイスを参考にして、ポケットを修正する。 (個人活動)</p> <p>修正したエプロンを再度試着して、相手にチェックしてもらおう。 (ペア活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今度はちゃんとできてるよ ・前よりも良くなったな <p>5. 学習のまとめ、ふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても使いやすいポケットの形や位置が決まってよかった ・友達のポケットもこんな点がいいな 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に作っておいたポケットの型紙を使用させる。 ・エプロンのはたらきを思い出させる。活動に合わせて使いやすいポケットになることを確認する。 ・全員で事例を使って考えることで、ポケットの付け方を見る視点を明らかにする。 ・自分のエプロンにポケットの型紙をまち針で留めて試着し、位置を確認する。 ・デザインと実際に着たときの位置の違いに気づかせる。 ・ペアで見合って、エプロンを着たときに使いやすい大きさ、位置をチェック表で互いに確かめさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点(思考力・判断力・表現力) —</p> <p style="text-align: center;">できあがりの形を予想して自分が使いやすいポケットの形、大きさ、位置を決めている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 作品, ワークシート】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・大きさ、形を修正する場合は型紙を直させる。修正する位置や分量を数値で把握できるようにする。 ・修正したものが使いやすいポケットになっているか、試着して確かめさせる。 ・決定したポケットの位置にチャコペンシルでしるしを付けさせておく。 ・ワークシートで本時の学習のねらいが達成されたか、ふりかえりをする。 ・次回、型紙を使って、布でポケット作りを行うことを伝える。